

複数月平均 80 時間を超える教職員  
0 人を目指して

# 働き方改革 通信

For everyone's Smile

第 12 号  
令和 4 年 3 月  
山形県教育庁

## ☆令和 4 年度を迎えるために準備する事その 2 「複数月平均」とは☆

令和 4 年度に目指す「複数月平均 80 時間超の教職員数 0 人」とは、これまでお示ししてきた複数月 6 月の数値のみならず、5 月平均、4 月平均、3 月平均、2 月平均でも 80 時間超がないということです。以下の表で言えば、令和 4 年度末（令和 5 年 3 月）には、×の部分全てが○になるのが目標ですが、令和 3 年度上期の集計時点では、6 月平均でも月平均 80 時間を超えている教職員が、小学校で 11 人、中学校で 147 人、高等学校で 174 人いたということになります。

### 【A さんの場合 6 月平均では 80 時間以下（78 時間）】

R4. 10 月	11 月	12 月	R5. 1 月	2 月	3 月	総計及び 6 月平均
85 時間	77	60	90	75	78	465 時間（78 時間）
当月×	当月○	当月○	当月×	当月○	当月○	80 時間超 2 回
	2 複数月 ×	2 複数月 ○	2 複数月 ○	2 複数月 ×	2 複数月 ○	80 時間超 2 回
		3 複数月 ○	3 複数月 ○	3 複数月 ○	3 複数月 ×	80 時間超 1 回
			4 複数月 ○	4 複数月 ○	4 複数月 ○	
				5 複数月 ○	5 複数月 ○	
					6 複数月 ○	

当月が 80 時間を超えなければ、複数月で超えることはありません。また、突発的な出来事への対応で 80 時間を超えてしまったとしても、翌月、翌々月等に対応すれば複数月 80 時間超にはなりません。

令和 3 年度上期  
小学校 11 人  
中学校 147 人  
高等学校 174 人

複数月 80 時間を超える教職員数を 0 人とするために、教育委員会としては「外部人材の配置」を、各学校においては「業務の削減」を行ってきました。これからは、業務の削減に併せて、「業務の効率化」を考える必要があります。

その一つのカギとなるのが、「業務の ICT 化」です。

裏面に続きます。

## ☆文部科学省の事例より ICT化で情報共有を素早く、確実に☆

文部科学省主催の「働き方改革フォーラム」が先日行われ、その中で福岡県久留米市立篠山小学校の事例発表がありました。篠山小学校ではこれまで、「電話で受け取った児童の出欠連絡は、インターフォンで担任に連絡」していたのを「**Google チャット**（ホワイトボードに記録したものを写真で送信）」で行ったことにより、インターフォンで学級指導が中断されることがなくなりました。

また、「明日の日程」「週予定」「月予定」など、ホワイトボードや紙でお知らせしていたものを**スプレッドシートで共有**し、明日、明後日の日程は、**個々の端末へ送信**（職員室や各学年フロアに「大型モニター」があるとさらに情報の見える化が進む）することで、「ホワイトボードに書く手間」が省けたり、「常に最新の情報が共有できる」ので、教員は「どの情報が新しいの？」と困惑したりせずに済むというお話がありました。

茨城県筑西市では、市内の小中学校が、**無料の市内共通連絡アプリ「マチコミ」**を利用して、出欠確認や、ファイル共有、緊急時の連絡、タイムラインによる行事等の写真の共有を行っているそうです。

文部科学省のホームページ「改訂版全国の学校における働き方改革事例集（令和4年2月版）」  
YouTube 「学校における働き方改革フォーラム」ぜひ参照ください。

また本県の県立高等学校でも、**令和4年4月からは、欠席確認アプリ**を使用して、朝の電話による出席確認を、アプリによって行うことができるようになります。

## ☆教員を目指す皆さんへ☆山形県の現職教員からのメッセージ

御協力本当に  
ありがとうございました。

趣旨に賛同いただき、沢山の方からメッセージを頂戴しました。

以下は、前進する働き方改革の様子が伝わってくるメッセージの一部です。

- 現場の先生方が動き、声を上げ、少しずつ働き方が変わってきているのだと新採1年目ですが実感しています。ありきたりな言葉ですが「やりがいのある仕事」だと心から思います。
- 働き方改革を進めてブラックとは言わせない状況にしますので、一緒に頑張りましょう！

**どんな点から「働き方改革が進んでいる」と感じるか、についても回答いただきました。**

- 年間10回（ほぼ月に1回程度）、生徒が4時間で下校し、その後の時間を教材研究や自分のリフレッシュに使う時間が確保されていること。
- 会議が少し減ったところ。年休を取るのに嫌がられないところ。
- アンケートがweb回答になった。○全職員にタブレットの配布があること。
- 通知表を書く欄の削減、職員会議や行事の削減、スクール・サポート・スタッフによる業務の軽減。
- クラス担任がクラスのことに集中できるように、担外でできる限りのフォローをしている点。課題についてはチームで対応しているところ。
- 資料作成の削減。会議の精選。日課表の見直し。それらを通し、子どもと向き合う時間を生み出すという意識が高まっている。
- 本当に必要なもの以外は少しずつ削減されている。

頂戴した沢山のメッセージは、これから行われる「教員採用試験説明会等」で、採用試験受験を考えている皆さんにお伝えする予定です。